



日・EU アニメーション・レジデンス始動！ 10 名のアーティストが文化交流と共同制作に挑む

キックオフイベントにて参加アーティスト 10 名を正式発表
日本人アーティスト橋本麦氏は「コラボレーションを通じて、どんな作品が生まれるのか楽しみ」

欧州連合（以下、EU）は、大阪・関西万博の公式プログラムの一環として、「日・EU アニメーション・レジデンス」を始動しました。本プロジェクトは、EU が同万博参加の一つの大きな目的であった、開催国日本と手を取り合い、文化を通じて未来に向けて二者関係をさらに強化するという考えを体現したものです。4 月 23 日（水）に開催されたキックオフイベントでは、参加アーティスト 10 名（日本と欧州それぞれ 5 名）が紹介されたほか、EU の大阪・関西万博コミッショナージェネラル ジャン＝エリック・パケ駐日 EU 大使や全参加アーティストおよびキュレーター 2 名が登壇し、日欧の文化交流と本プロジェクトへの期待についてメッセージを寄せました。本日より、文化交流と国際共同制作を通じた 6 カ月間のプロジェクトが本格的にスタートしました。



EU コミッショナージェネラル パケ駐日 EU 大使が語る、「日・EU アニメーション・レジデンス」への想い

ジャン＝エリック・パケ駐日 EU 大使は、「大阪・関西万博でこのような取り組みができることを嬉しく思います。若い創造力が国境を越えて結びつき、新たな可能性を切り拓いていくことを心から楽しみにしています」と挨拶。その後、「日・EU アニメーション・レジデンス」についてや、参加アーティスト 10 名に向けてメッセージを送りました。

大使はまた、「この文化プログラムの最初のイベントを、皆さんと一緒に始めることができて光栄です。日本のアニメ・漫画文化と、多様な欧州の文化が交わる瞬間を見るのが楽しみです。アートとアニメは政治的な重要性もあり、日欧の繋がりを強化する役割を果たしています。アーティストとして、その努力に貢献できることを期待しています」と述べました。

≪報道関係の皆様からのお問い合わせ先≫

大阪・関西万博 EU パビリオン PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ内）
担当：高田（080-7647-3019）、土居（090-6653-2270）、竹島、金田一、武内
TEL: 03-6894-3251 / FAX: 03-5413-3232 / E-MAIL: media-euatexpo@ssu.co.jp

日本と欧州の文化交流の架け橋となる 10 名のアーティスト

本レジデンスに参加するアーティストたちは、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に着想を得て、アニメーションという、物語と技術が融合するメディアを通じて、過去と未来をつなぐ表現に挑戦します。

本で行われたキックオフイベントでは、初めて顔を合わせた参加アーティストたちが、2名のキュレーターを交えて自己紹介やこれまでの作品紹介を行い、活発な交流の場となりました。

EU 側の参加アーティストであるルシア・マルツリジャーク氏は、「アートは文化の架け橋になるものだと考えており、日本と EU の新たな連携に強い関心を持っています。日本の文化に触れることで、新たなインスピレーションを得られることを心待ちにしています」と、本プログラムに対する熱意を語りました。また、日本人アーティストの橋本麦氏は、「憧れのアーティストの方々と共に選ばれたことに、驚きと喜びを感じています。今回のレジデンスでは、他の参加者とのコラボレーションを通じて、アイデアのない状態からどんな作品が生まれるのか楽しみにしています」と話し、プロジェクトへの期待を表明しました。



■ 参加アーティストのご紹介

【EU】

ローラ・ゴンサルヴェス（ポルトガル）



2009 年に美術学位を取得後、アニメーターとして活動を開始。2012 年、Arts University Bournemouth でアニメーション修士課程の一環として初監督作品『Three Weeks in December』を制作。2013 年からポルトに移住し、Bando à Parte にてアニメーター／ペインターとして活動。2016 年にはアレクサンドラ・ラミレスと『Drop By Drop』を共同監督。2022 年には単独で『The Garbage Man』を発表、2024 年には再びラミレスと『Percebes』を共同監督。制作スタジオ BAP の創設メンバーの一人でもある。

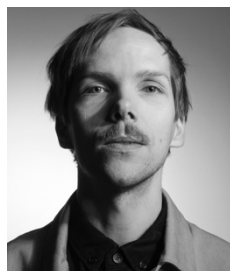
エドモンズ・ヤンソンス（ラトビア）



ラトビア出身のアニメーション監督、クリエイティブプロデューサー、絵本作家、そしてアニメーションスタジオ「Atom Art」の創設者。

さまざまなジャンルで短編・長編アニメを手がけ、国際映画祭で多数の受賞歴を持つ。ラトビア芸術アカデミーでアニメーション監督の教鞭も執る。主な作品に、『Choir Tour』（2012）、『Guard Of Honour』（2021）、『Freeride in C』（2024）などがある。

サンダー・ヨン（エストニア）



エストニアのアニメーション監督。

『Velodrool』『Moulinet』『Sounds Good』など多数の受賞歴を持ち、『Sierra』（2022）はアカデミー賞候補にも選出。エストニア芸術アカデミーで教鞭も執る。2023 年にはエストニア大統領より「若手文化人賞」を授与された。

ノエミ・マルシリー（ベルギー）



1983 年ベルギー生まれ。版画、絵画、動くイメージを手がける作家。ブリュッセルのサン＝リュック美術学校でイラストを学び、コミック『Fétiche』（2013）、『Memet』（2019）、『Mori』（2024）などを出版。カル・ルーセンとの共作で『Poodle』（2010）、『Around the Lake』（2013）、『Mosquito』（2014）、『I don't feel anything anymore』（2016）など複数の短編アニメを制作。最新作『Whatever moves is alive』（2022）は詩的な自画像作品。

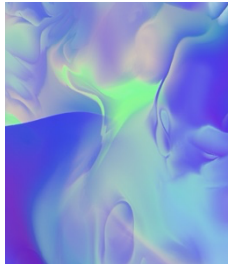
ルシア・マルツリジャーク（クロアチア）



クロアチア出身のアニメーション監督で、現在エストニアを拠点に活動。エストニア芸術アカデミーで教鞭をとるほか、タリンの音楽・演劇アカデミーで視聴覚作曲を専攻。2016 年以降、タリンの Eesti Joonisfilm とザグレブの Adriatic Animation で短編を多数制作。『Eeva』（2022）はベルリン映画祭でプレミア上映、2024 年のアカデミー賞候補、エミール賞も受賞。また、グレン・ハンサードやマリ・カルケンといった著名ミュージシャンのミュージックビデオを監督。絵本や映画祭のポスター制作など、イラストレーターとしても活動中。

【日本】

橋本麦



ジェネレーティブアート、モーショングラフィックス、ストップモーション、インタラクティブデザインまで幅広く活動する映像ディレクター／アニメーション作家。実験映画やハッカー文化に影響を受け、視覚表現と技術革新の両面から新たな表現を探求。ツール開発と表現手法の研究を重ね、多様なビジュアルスタイルに挑戦し続けている。

工藤雅



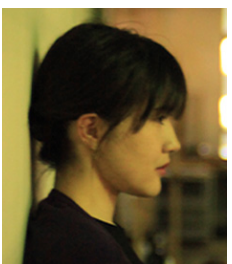
北海道・千歳市出身のアニメーション作家。時間、空間、記憶をテーマに、8mm フィルム、サイアノタイプ、手描きアニメーションなどのクラシカルな技法で作品を制作。1 フレームごとに丁寧に描画・撮影して構築している。

榊原澄人



1980 年北海道生まれ。15 歳で日本を離れ、英国王立芸術大学（RCA）を卒業。現在は長野県・飯綱山の麓に在住。

副島しのぶ



アニメーションを「死から命を再生させる力」と捉え、精神的次元を探る表現を追求。腐敗する有機物（肉、穀物、昆虫など）を用いたストップモーションアニメを中心に、見えるものと見えないもの、物質と精神の間の緊張に着目。第 68 回オーバーハウゼン国際短編映画祭、文化庁メディア芸術祭などで受賞。

矢野ほなみ



瀬戸内海の小さな島で生まれ育ったアニメーション作家・映像作家。
島を舞台に制作した『骨噛み』（2021）は、第45回オタワ国際アニメーション映画祭で
短編グランプリを受賞、世界中の映画祭で高く評価された。

■キュレーターのご紹介

クレマン・ブラガール（フランス）



アニメーションを専門とするフリーランスの映画プログラマー、キュレーター、メンター。INA で映像保存を、ゴブラン校で制作マネジメントを学ぶ。TeamTO、La Cabane、Canal+、France TV、CNC、セザール賞など、フランスの主要な企業や機関と協働。また、アヌシー国際アニメーション映画祭、OIAF、FMX、The Animation Workshop、CEE Animation Workshop、Cartoon Media など、国際的なイベントにも多く携わっている。

山下宏洋



東京出身。2001 年よりイメージフォーラム・フェスティバルのフェスティバル・ディレクター、2005 年より渋谷のシアター・イメージフォーラムのプログラマーを務める。国内外の映画・メディアアートフェスティバルや映画イベントにてゲストプログラマー／キュレーターを歴任。

韓国・光州のアジア文化センターでは映画・映像コレクションのアドバイザーを務める。審査員としても、香港国際映画祭、カンヌ監督週間、ロッテルダム国際映画祭、タンペレ国際映画祭、ミニキノ映画週間（パリ）など、数多くの国際映画・芸術祭に参加している。

■「日・EU アニメーション・レジデンス」概要

「アニメーション芸術を通じて文化の架け橋を築く」をテーマに、日本と欧州のアニメーター計 10 名が参加する、6 カ月間にわたる共同制作・文化交流プロジェクト。イメージフォーラム（東京）の協力、京都市の後援のもと、EU の外務省に当たる欧州対外行動庁および EU 出資プロジェクト「カルチュラル・リレーションズ・プラットフォーム」が主催する国際アーティスト・レジデンスです。

本プログラムは、文楽や浪曲、河内音頭、声明など、関西の豊かな伝統芸能を現代的な視点で再解釈し、異文化対話の精神を体現する作品を創作。3 フェーズで構成され、第一弾としてアーティストが 4 月 23 日（水）から関西地方に滞在し、5 月 9 日（金）の「ヨーロッパ・デー」イベントに参加します。さらに、6 月にはフランス・アヌシー国際アニメーション映画祭での発表に向けてオンラインでの共同制作支援が予定されており、プログラムの最終フェーズとなる 2025 年 10 月には、参加アーティスト同士が協働し、日本と欧州を舞台に、アートを通じた文化交流と協働が展開されます。

名 称：日・EU アニメーション・レジデンス

期 間：2025 年 4 月 23 日（水）～10 月

■EU パビリオン概要

「未来を育む」をテーマに、EU が追求する持続可能で包摂的な、結束力のある未来社会の構築における多様性の価値、そして新たな科学技術・イノベーションがもたらす可能性といった主題を探究できる知的好奇心を喚ぶパビリオンです。外観、内観デザインは、「新欧州バウハウス」の 3 つのコンセプト、「持続可能性」「美しさ」「インクルージョン（包摂性）」からインスピレーションを得ています。

名称：欧州連合 (EU) パビリオン

期間：2025 年 4 月 13 日（日）～10 月 13 日（月）

場所：セービングゾーン S07

公式 H P：https://eu-at-world-expos.europa.eu/index_ja

公式 SNS：

・Instagram：[@euinjapan](https://www.instagram.com/euinjapan)

・X：[@EUinJapan](https://twitter.com/EUinJapan)

・Facebook：[@Delegation of the European Union to Japan](https://www.facebook.com/DelegationoftheEuropeanUniontoJapan)



■ オフィシャル素材

オフィシャル写真素材は、下記 URL にアップロードしておりますので、ダウンロードのうえ、ご活用ください。

<https://x.gd/C0jdL>

«報道関係の皆様からのお問い合わせ先»

大阪・関西万博 EU パビリオン PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ.内）

担当：高田（080-7647-3019）、土居（090-6653-2270）、竹島、金田一、武内

TEL: 03-6894-3251 / FAX: 03-5413-3232 / E-MAIL: media-euatexpo@ssu.co.jp